

環境と防災 1

牧野恒一

本誌(セキュリティ産業新聞)から、「防災に関連してセキュリティ産業や防災産業の関係者の仕事のヒントになるような話を随筆風に書いてほしい」と頼まれた。産業に従事した経験がないので、どんな話が仕事のヒントになるかよくわからないところもあるが、「防災」という不粋なジャンルも、その本質を追究していくと結構面白い話が転がっている。「そんなことで良いのなら」と引き受けることにした。

まずは、手始めに「環境と防災」というテーマで何回かうんちくを傾けてみることにしたい。

[環境防災部]

最近「環境防災学部」とか「防災環境学科」などと名打つ学部や学科を持つ大学が増えた。企業の中にも「環境防災部」などというセクションを設けているところは多い。

来年1月にいよいよ実施される省庁再編にあたって、「環境庁」の「環境省」への昇格に際して、当初、「防災」を取り込んで「環境防災省」にしたらどうか、などという案が出ていた。

ことほど左様に「環境」と「防災」とはセットで語られる場合が多くなって来ている。ところが、よくよく「環境」と「防災」の中身を考えてみると、似ているようでもあり関係ないようでもあって、セットで語られる必然性が今一つはっきりしないところもある。

石油コンビナート事業所などが「環境防災部」などのセクションを置く理由は、これはもうハッキリしている。環境対策部門も防災対策部門も、「直接的には利益を生まない部門」という共通点があるからである。この場合に、「環境防災部」の社内の位置づけをじっと見ると、その企業の環境や防災に対する姿勢が自ずと表れているのが面白い。

「このジャンルは軽視するととんでもない目に遭う可能性が高い」と判断している企業は、経営陣になるべく近い位置づけにして「危機管理」の一環として捉えているが、そのような認識が低い企業は「不採算部門」と捉えていて継子扱い。人事の際にもあまり優遇されないようである。どちらが多いのかは調べたことがないが、最近の社会の動向を見れば、前者が増えていかなくはおかしいのだと思う。もし、最近の不況で「背に腹は代えられない」と、環境・防災部門を縮小して社内的な位置づけを低くしているようなところがあれば(大いにありそうだが) いずれ大きな代償を払うことになるに違いない。経営者の資質が問われるところであろう。

[4つの視点]

さて、一口に「環境と防災」と言っても、あまりにも漠然とし過ぎている。「環境」につ

いては、比較的狭い地域をイメージした「公害対策」から全地球まで視野に入れた「地球環境」まで含まれるし、広義には「雰囲気」や「景観」などの意味もある。「防災」についても、有珠山の爆発などの火山噴火、地震、津波、高潮、洪水、崖崩れなどの自然災害から、火災、爆発、劇毒物や化学物質の漏洩、バイオハザードなどの都市災害、産業災害に至るまでの各種災害の種類に応じて様々な「防災」があり、実に幅広い。

あまり拡張して考えると議論が散漫になりそうだし、筆者の不案内なジャンルもある。そこで勝手ながら「防災」をやや狭く「火災等の災害を防ぐこと」を中心にする事とし、「環境」については話の流れに応じて「公害的視点」から「地球環境的視点」までやや広く捉えて考えてみる事としたい。

以上を前提として、「環境と防災」を次の4つの側面から考えてみよう。

第一は、「火災対策が環境破壊を防止する」という側面である。

火災は、通常、木材等の有機物の燃焼現象であるから、大量のCO₂を発生させる。このCO₂が地球温暖化にとって多少なりとも悪影響を及ぼすことは言うまでもないだろう。このことだけ考えても、「火災対策は地球環境の悪化を防止する」という側面があると言えるだろう。

第二は、「環境対策が火災対策上もプラスの働きを持っている」という側面である。

たとえば、広い意味での環境対策である公園や緑地の整備が、市街地大火の防止にも役立つなどということである。

第三は、「火災対策そのものが環境を破壊するかも知れない」というマイナスの側面である。

たとえば消火剤の一種であるハロンは、フロンと同様、オゾン層破壊に一役買ってしまう。火災対策が地球環境にとってマイナスの働きも持ちうる、ということも考えておく必要があるのである。

第四は、地球の温暖化防止などの「環境対策が火災危険を増すことがある」というマイナスの側面である。

たとえばナトリウム・硫黄電池は、電気需要の平準化により省エネルギー、ひいては地球温暖化防止にも役立てようとして開発が進められているが、この電池に用いられる金属ナトリウムはご存じのとおり火災危険が極めて高い。火災対策を十分に行わずに不用意に開発を進めると、火災が多発することにもなりかねないのである。

今後、数回にわたり、以上の4つの側面から「環境問題と火災対策」について考察してみることとしたい。